

「図書館運営体制のあり方の検討」①

I 「図書館運営体制のあり方の検討」にあたって

西東京市では、「第2次総合計画」(平成26年度から35年度)を健全な行財政運営の側面から支え、実効性を確保するため、「第4次行財政改革大綱」(平成26年度から35年度)を策定し、将来を見通したうえで必要となる「経営」の視点で、今後、市が目指すべき将来像を「将来見通しを踏まえた持続可能で自立的な自治体経営の確立」として掲げている。

「第4次行財政改革大綱」

平成26年度から平成35年度の期間の取組として、4つの基本方針を設定している。

基本方針Ⅰ 経営の発想に基づいた将来への備え

基本方針Ⅱ 選択と集中による適正な行政資源の配分

基本方針Ⅲ 効果的なサービス提供の仕組みづくり

基本方針Ⅳ 安定的な自主財源の確保

これらの基本方針に沿って、図書館については、基本方針Ⅲにある推進項目の「民間活力の活用促進」の実施項目として、「図書館の運営体制のあり方の検討」をしていく。

これは、図書館機能の充実と運営の効率化を図ることを目的として、高度化・多様化する図書館需要を的確に捉えながら、効果的・効率的な事業執行に向けて、指定管理者制度等の民間活力の活用について調査研究し、最も適した実施主体の検討、運営形態の見直しを行う、としている。

II 西東京市図書館の現状と成果

～「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に沿って

1 管理運営

(1) 基本的運営方針及び事業計画

(西東京市図書館基本計画・展望計画・西東京図書館事業概要)

【基本的な考え方】

西東京市図書館は、市民ひとりひとりが自ら学び、考え、成長し、決定し、自らの責任で行動するために必要とされる知識や情報を分け隔てなく市民すべてに提供する公共サービス機関である。市民の成長を支援する機関であるために、時代に適合した品質の高いサービス提供に積極的に取り組み成長する図書館であり続けることを基本的な考えとする。

【目標】

- (1) 図書館は、市民のために資料や情報の提供等、直接的な援助を行う機関として、市民の要望を把握するよう努めるとともに、地域の実情に即した運営に努める。
- (2) 市民要求の多様化と増大に応えられるよう資料の充実に努めるとともに、図書館施設と図書館職員・嘱託員の組織体制を十分に活用した図書館サービスを提供する。

【図書館の機能】

- ・過去から受け継いだ市民の財産である貴重な資料を次代に受け渡す機能
- ・誰でもが平等に自由に利用できる図書館の機能
- ・地域に根ざした文化を守り発展させ、新しい文化の創造を支援する機能
- ・類縁機関と連携し資料や情報の相互利用を行なう機能
- ・行政や商工農林団体、その他の機関や団体と協力し市民サービスを提供する機能
- ・利用者の秘密を守る機能

【事業計画】

●資料計画 (西東京市図書館基本計画・展望計画 7 頁～10 頁)

●サービス計画

①成人サービス

市民の多様なニーズに応え、暮らしに役立つ資料から日常の仕事に必要な知識やキャリアアップに役立つ資料など、さまざまな課題解決を支援する幅広い資料・情報の提供に努める。

②児童サービス

図書館の内外で、子どもと本を結びつける活動を充実させる。

子どもの読書活動にかかわる大人に対しても支援の充実を図る。

「西東京市子ども読書活動推進計画」の推進に努める。

③レファレンスサービス

レファレンスサービスの充実を目指し、レファレンスの利用の促進を図る。

④地域・行政資料サービス

西東京市を中心として、周辺の多摩地域、東京、隣接県を含めた地域を知るための資料を収集・保存・提供する。

⑤ハンディキャップサービス

デジ書図書の普及や来館できない高齢者への本の宅配を通して、情報弱者への資料提供を推進していく。市民ボランティアの協力により宅配サービスを充実していく。

(2) 運営の状況に関する点検及び評価等

「西東京市図書館基本計画・展望計画」に基づき、平成 21 年度から図書館事業評価を実施。

【西東京市市民意識調査報告書】(平成 27 年 10 月) より

回収数 2,007 票 (回収率 40.1%)、有効回答数 2,004 票

対象 18 歳以上、5,000、無作為抽出、平成 27 年 5 月 29 日～6 月 15 日

基本属性

居住年数 30 年以上 33.6% 居住形態 持ち家 72.2% 二世帯世帯 51.6%

職業 勤め人 (会社・公的機関等、パート、アルバイト含む) 44.8%

出身地 市外 76.8%

調査項目のうち、(2) 西東京市の公共・公用施設の利用について

公共施設の年間利用の回数が図書館は最も多い 68.1%の市民が利用しており、芸術文化の分野では『現在の満足度』『今後の重要度』ともに「図書館サービスの充実」のポイントが最も高くなっていることから、市民が良く使う、市民ニーズの高い公共施設と言える。

【図書館利用者アンケート】

平成 26 年 1 月実施。中学生以上を対象

利用層：主婦層が最も多く、次に勤労者が続いている。

年齢別：利用の多いのは 40 歳代、30 歳代、50 歳代となっている。

利用頻度：月数回利用するが 80%以上

利用目的：約 4 割が本や雑誌を読む利用

図書館に求める重要度：10 項目の設問に対し「他の利用者のマナー」「読みたい本や雑誌の充実度」「本や資料の探しやすさ」「図書館の立地場所」の順に高い。

自由意見：施設や設備の機能拡充、学習室の設置

(3) 広報活動及び情報公開

平成 14 年 6 月より図書館ホームページ開設

検索、予約と図書館からの情報発信が中心

平成 20 年 6 月 リニューアル

検索システムの向上 (雑誌の一覧からの検索、地域・行政資料検索ページの開設) バナー

広告欄の設置、地域・行政資料ページの追加とレファレンスページ及びレファレンス検索機能の追加（Web レファレンスの試行実施は平成 21 年 7 月より）

リニューアルにより各ページとも 20%前後の増加が見られた。保谷駅前図書館の開館に合わせ利用者が大幅に増加したことの影響も大きい。

平成 26 年 2 月 リニューアル

予約システムの向上（予約かごとお気に入りの導入）、かんたん検索に全文検索を導入、デジタル西東京ほか地域・行政資料の新しいコンテンツの公開、スマートフォン版の開設

（表 1）月平均アクセス回数（20 年度はリニューアル前後の平均。26,28 はスマホ版含む）

アクセス回数(月平均)	20 年前	20 年後	21 年	25 年	26 年	28 年
トップページ	172,697	256,602	223,327	114,283	138,390	145,148
資料検索(通常の検索)	51,085	62,755	65,671	75,123	300,684	219,826
利用状況確認 (ログイン画面)	50,048	68,111	72,717	87,496	117,329	121,102
新着案内	4,803	6,168	5,586	5,256	6,196	5,887
ベストリーダー	1,020	1,877	1,412	1,078	1,366	1,424
ベストオーダー	2,107	2,052	1,672	1,406	2,034	1,869
ご利用案内	1,988	3,839	3,236	4,082	7,272	6,734
新聞記事検索		272	257	253	139	644
地域資料	255	257	238	277	111	213
地域資料分野検索		244	237	239	174	310
デジタル西東京市					1,956	2,119

図書館だより 1 号（13 年 3 月発行）～66 号（29 年 6 月発行）

年 4 回発行 発行部数 2,000 部 → 28 年度から 1,500 部に縮小

66 号から紙面を刷新 コンセプトは、

多くの人に読みやすく、図書館は面白い、が伝わるように

文字サイズを大きく、弱視やディスレクシアの方もわかりやすい書体

簡潔で易しい言葉を使う。難しい漢字にはふりがな、白黒からカラーに変更

FM西東京

平成 10 年 8 月から図書館からの新着図書案内として出演開始。

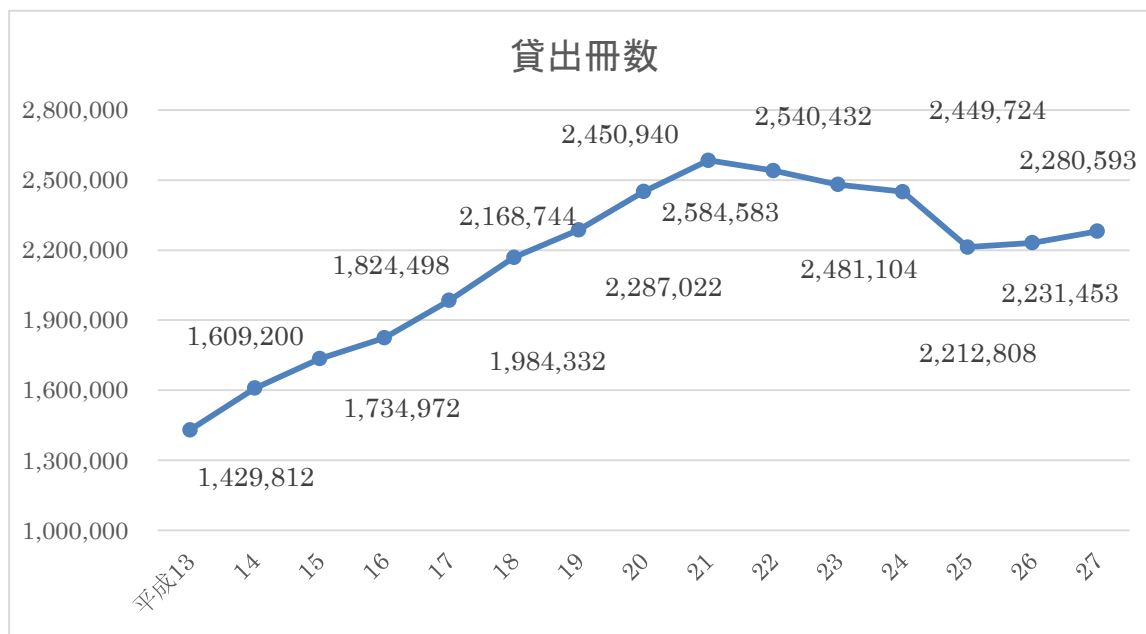
合併後も図書館情報に関する番組が週 1 回。電話での生出演に始まり、現在では図書の案内と図書館からのお知らせの原稿を作成して放送している。

(4) 開館日時

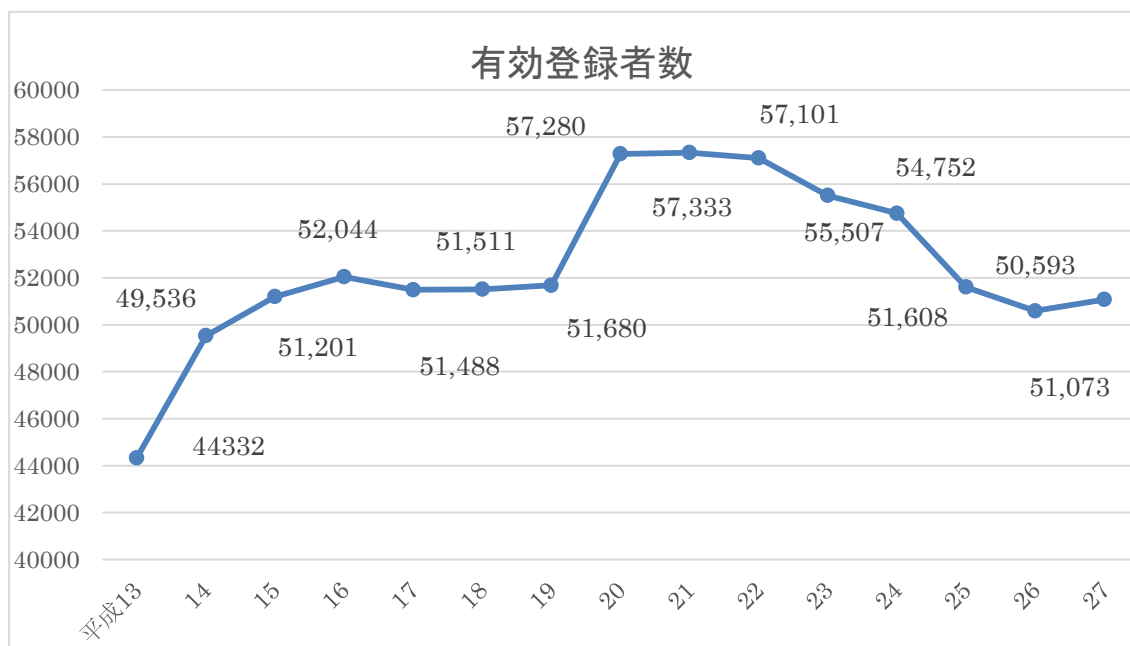
(表2) 開館時間の延長

開始年月	実施館	開館日	開館時間
平成13年1月	中央	火・木曜日	10:00~19:00
		水・金曜日	10:00~20:00
		土・日曜日	10:00~18:00
平成20年4月	中央	火・木・土・日曜日	10:00~18:00
		水・金曜日	10:00~20:00
		火~日曜日	10:00~18:00
平成20年6月	保谷駅前	中央図書館と同様	
平成24年4月	柳沢・ひばりが丘	中央図書館と同様	

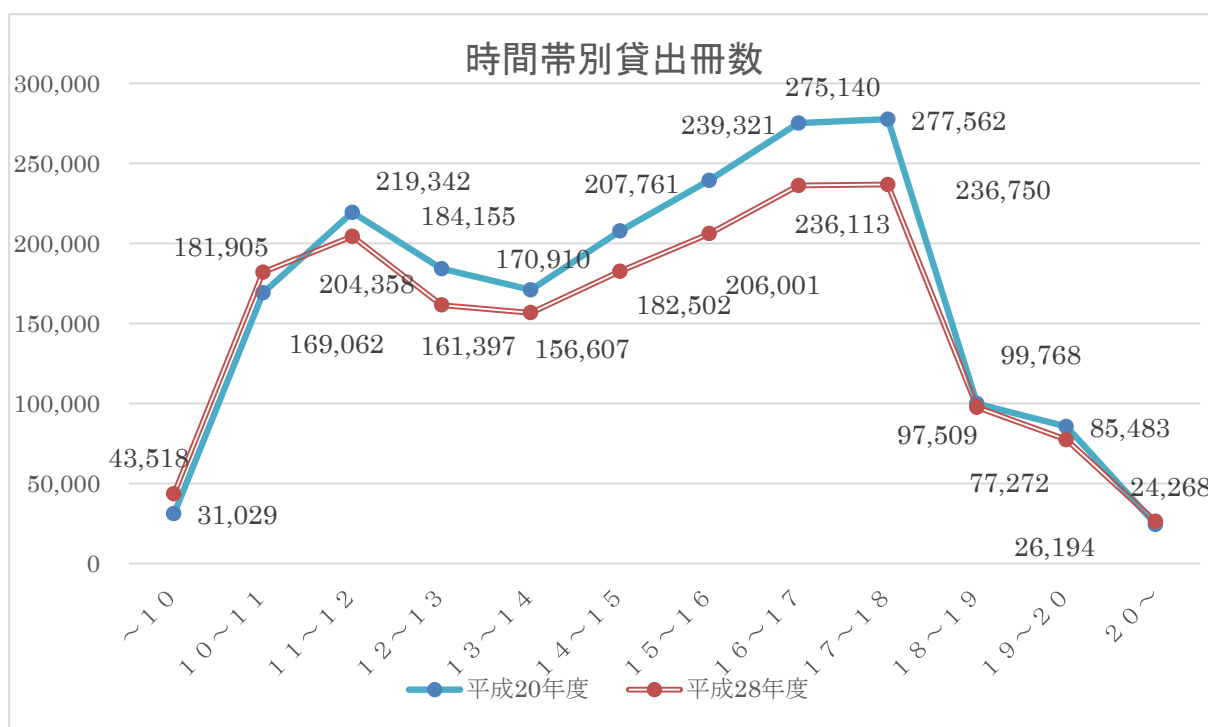
(図1)



(図2)



(図3)



(5) 図書館協議会

委員構成 10名（学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育関係者、学識経験者）

開催頻度 定例会4回、臨時会2回、その他視察等

平成20年3月31日 「図書館事業の見直し」（提言）

平成25年4月30日 「西東京市図書館における電子書籍のあり方について」

平成21年度～ 図書館事業評価の二次評価を実施

(6) 施設・設備

「公共施設の適正配置等に関する基本計画」（平成23年11月）

- 基本方針：①改修・更新需要への対応の視点 ②量的適正化の視点 ③質的適正化の視点
④維持管理コストの適正化の視点 ⑤資金計画の視点

●見直しの方向性

- ①中央図書館の耐震対応（改修、建替え、または移転）**中期目標**
○既存施設を耐震改修して継続利用 ○現在地で建替え ○非現在地に移転
- ②中央図書館の機能拡充 **短期目標**
○中央図書館の書庫の別途確保（芝久保図書館の利用）
- ③ICタグシステム等を活用した運営改善の検討 **短期目標**
○利用の多い館の開館時間の拡大 ○新町分室の運営形態の見直し

「西東京市公共施設等総合管理計画～公共施設等マネジメント基本計画」（平成28年9月）

- 基本方針：①施設総量の抑制 ②維持管理に係わる費用負担の軽減 ③公共施設の計画的な管理 ④公共施設等の跡地活用 ⑤各種財源の活用

●図書館施設の基本的な管理方針

中央図書館の機能拡充、中央館と地域館の機能・役割分担を踏まえ、将来的な中央館と地域館の配置見直しを検討する。

●施設の劣化状況

中央図書館は、平成25年度に実施した耐震診断の結果、耐震対応が必要な施設である。

(表 3)

施設名称	床面積 (㎡)	建築年	経年数	劣化状況	併設施設
中央図書館	1,571	1975	41	C	田無公民館
保谷駅前図書館	822	2008	8	A	保谷駅前公民館
芝久保図書館	625	1982	34	A	芝久保公民館
谷戸図書館	770	1984	32	A	谷戸公民館
柳沢図書館	813	1987	29	C	保谷公民館
ひばりが丘図書館	1,101	1994	22	A	

●施設の利用・運営状況

近隣市や都内同規模類似団体（立川市・三鷹市・府中市・調布市・小平市・日野市・東村山市）と比較すると、市面積に対する施設数はほぼ同水準。人口当たりの施設総面積は小さく、特に中央図書館が小規模。

座席数も平均よりも少なく、滞在型利用の利便性は高くないが、貸出件数は平均を大幅に上回っている。

(表 4)

	施設数	①	延面積	②	中央館	蔵書数	③	座席④	貸出件数
西東京市	6	0.38	5,690	28.7	1,571	798	4.02	1.96	2,304
近隣平均	5.4	0.38	7,385	52.5	3,301	680	4.87	3.22	1,290
類似平均	8.7	0.39	7,732	39.7	3,760	1,055	5.37	2.88	1,810

*①は面積 1k㎡あたり、②③④は市民 1,000 人あたり

●見直しの方向性

- ①中央図書館の耐震対応（2020 年度までに耐震化を目指す） 短期目標 中長期目標
- ②中央図書館の機能拡充の検討（中央館が保有すべき機能や果たすべき役割の整理と機能拡充の検討する） 短期目標
- ③中央館・地域館の配置見直しの検討（中央館の機能拡充を踏まえ、中央館・地域館の機能や役割分担の検証。利用状況や運営効率に課題のある施設の有効活用を含め、将来的な中央館と地域館の配置見直しの検討） 短期目標 中長期目標
- ④利便性の向上及び図書館の管理・運営体制の見直しの検討（ICタグ資料管理システムや予約棚システムの効果検証、利用者の意見聴取等、利便性の向上。高度化・多様化する利用者ニーズをとらえながら、効果的・効率的な事業執行に向けて、指定管理者制度等の民間活力を含め、管理・運営体制の見直しを検討） 短期目標

●今後のスケジュール

(表 5)

短期（平成 28 年度～30 年度）	中長期（平成 31 年度～45 年度）
◇合築複合化の方針の決定	◇方針を踏まえた対応
◇中央図書館の機能拡充の検討	◇中央図書館の機能拡充
◇中央館・地域館の機能や役割分担の検証	◇中央館・地域館の配置見直しの検討
◇利便性の向上及び図書館の管理・運営体制の見直しの検討	◇検討結果を踏まえた対応

【現状】

西東京市図書館の施設は、中央館と 5 つの地域館の 6 施設によって構成されている。

中央図書館、保谷駅前図書館、柳沢図書館、ひばりが丘図書館の 4 施設は、至近の駅からそれぞれ徒歩 3 分以内であり、利便性のよい施設となっている。また、芝久保図書館、谷戸図書館は住宅地のなかに整備され、地域への図書館サービスを提供している。

西東京市図書館は、図書館管理システムと物流を連動させた図書館ネットワークを形成し、6 つの図書館いずれにおいても、資料の貸出・返却・予約等の利用が可能となっている。また、補完的な機能として、東伏見ふれあいプラザや新町福祉会館での図書サービスや保谷駅・保谷庁舎にブックポストを設置し、市内全域へのサービスの提供に努めている。

【課題】

現在の中央図書館が抱える主な課題として、以下のようなものが挙げられる。

①蔵書能力の不足

◇図書館ネットワーク全体の中核を担う中央図書館の規模の小ささが際立っている。

◇現在の中央図書館の蔵書庫は、本来の収容能力を大幅に超えた蔵書を抱えており、作業スペースを十分に確保できていないが、現在の低い天井高のままでは館内の蔵書能力向上を図ることはできない。補完策として他の図書館における収容力の向上を図っているが、問題の根本的な解決には至っていない。

②閲覧スペースの不足

◇全体として閲覧席数が少なく、特にスペース上の問題から机の配置が難しいため、図書館の資料を活用した学習を施設内で行いづらい環境である。

③レファレンス機能の不足

◇スペース上の問題からレファレンス専用カウンターを設けることができておらず、多摩 26 市中では 20 市が設置済みという状況から大きく後れをとっている。

◇高度に情報化が進んだ現在の状況を踏まえると、レファレンス専用情報検索端末の導入も望まれるが、スペース上の問題で実現できない状況にある。

④施設建物の老朽化と耐震上の課題

◇施設建物は築 40 年が経過しており、耐震上の課題も抱えているため、継続使用するのであれば耐震化が必要である。

まとめ

このように、中央図書館は、主に施設が狭小であることが原因となり、図書館ネットワーク全体の中核施設としての本来の機能を十分に果たせていない状況にある。

施設建物は、耐震改修を行えば継続使用することも可能ではあるものの、上記の課題が固定化し、図書館ネットワーク全体のサービス向上が制約されることが懸念される。中央図書館は、西東京市の図書館ネットワーク全体の中核を担う施設であり、中央図書館だけで保存している地域行政資料や、レファレンス資料、蔵書庫にある資料も含め、保有する資料は、市内全図書館共通の財産として捉えるべき点に留意が必要である。